

Emergency Watch



神戸こども初期急病センター



2013年2月受診者数：2723人

訴え

- 1. 発熱 : 1980人 (1754人)
- 2. 咳 : 1131人 (144人)
- 3. 鼻汁 : 914人 (13人)
- 4. 嘔吐 : 523人 (243人)
- 5. 腹痛 : 314人 (111人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

- 1. インフルエンザ : 848人
- 2. 急性上気道炎・咽頭炎 : 806人
- 3. 感染性胃腸炎 : 405人
- 4. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 109人
- 5. 気管支炎・肺炎 : 75人

今月のワンポイント！

3月に入り、日中は少し気温が高くなる日もちらほらありますが、まだまだ気候は不安定で北海道では豪雪などがあり自然災害が出ているようですね。またPM2.5に関しては神戸市でも3月に入り測定値が上昇しているようで、外出時はマスクをするなど注意が必要です。

今月は神戸こども初期急病センターへの受診者は2723人と昨年よりやや減少しています。インフルエンザ検査を施行した患者さんはその半数以上の1362人、そのうち、インフルエンザA型陽性者は581人、B型陽性者は90人で、インフルエンザ以外の熱の風邪も流行していることがわかります。また例年に比べるとB型の頻度は少ないようです。タミフルを代表とする抗インフルエンザ薬について、使用したほうが良いかどうかの相談をよく受けます。抗インフルエンザ薬は特に日本で使用頻度が多いことが全世界的に知られていますが、インフルエンザで重症の転帰をとられた患者さんが日本ではとても少ないことが調査で明らかにされているようで、薬の効果が出ているのだろうと考えられています。インフルエンザは昔からある感染症で抗インフルエンザ薬を服用しなくても殆どの方が数日でなおる感染症ですが、タミフルは有熱期間を約1日短くする効果はあるようですし、体力の弱いご老人や子供では副作用に注意しながら服用しても良いのでは、という傾向になっているようです。それでもこの薬は完全に症状をおさえるものではないですし、脳症などの重症化を抑える効果ははっきりしないようですので、やはり予防をしっかりして、うつらないように、うつさないように気を付けることが大事でしょう。抗インフルエンザ薬と行動異常の関係が言われていますが、インフルエンザの際には、抗インフルエンザ薬内服の有無にかかわらず行動異常への注意は必要です。また、今シーズンからインフルエンザによる自宅療養の日数が変わっています。エマージェンシー・ウォッチ26号に記載していますので、気を付けて下さい。

咳や鼻の症状があるときは、マスクをつける、咳をするときは手で口元をおさえるなどのマナーも大切でしょう。インフルエンザが減少すると同時に、例年ではロタウイルスなどの胃腸炎が流行してきました。ひきつづき、うがいや手洗いを家族みなさんと徹底しましょう。

